

● 6月25日（日） 快晴 岩手県（大船渡市、釜石市、大槌町、山田町、宮古市、田老町  
岩泉市、田野畑村、譜代村、野田村、久慈市）

- ・昨夜は被災地の光景を思い出して興奮し良く眠れなかった。6時前に起床。  
さわやかな晴天だが気温は14℃、寒いので長袖を着こんだ。
- ・昨日大船渡市へ入ったが、まだ被災地を十分回っていなかったなので今日はまず大船渡市から始めた。  
11メートルを超える津波が観測された岩手県大船渡市も市街地が津波にさらわれ壊滅状態になった。  
その様子は今もウェブで様々な映像を見ることが出来る。
- ・今日は多くの津波映像が撮られている大船渡湾岸の中心部ではなく、その北側にある越喜来湾へ行ってみた。ここは三陸鉄道南リアス線の「さんりく駅」があって大船渡市の北の中心街だった。**大船渡市三陸町越喜来地区**の被害状況は、防潮堤や防波堤の多くが倒壊し、平地の集落が広範囲にわたって被害を受けた。大船渡市役所三陸支所、越喜来小、三陸公民館など主要施設や商店街が全壊したという。  
地震発生から10分後には津波の第1波が観測され、その後押し寄せた津波によっておよそ500世帯が被害を受け、79人が犠牲になったそうだ。
- ・海岸近くに無残に破壊された越喜来小学校と体育館が残っていた。海岸から200メートルほどしか離れていないこの小学校は3階建ての校舎も屋上の一部を除いて水没したが、当時学校にいた71人の児童は、すぐ高台に避難することができて全員無事だった。



津波により壊滅した越喜来小学校と体育館

・町の周辺はきれいに片づけられているが小学校の校庭には瓦礫が山と積まれている。惨状の写真を撮っていると、何台もの車が集まってきて、おじさんやおばさんが重装備で下りてきた。尋ねると、瓦礫の後片付けをしているという。  
なに！この膨大な瓦礫をこの人たちが片付けているの！いつまでかかるのだろう！気が遠くなりそうだ。でも皆さん黙々と仕事に入って行った。用意してきた写真メッセージをお渡しして、「頑張ってください！」と励ますのが精いっぱいだった。



・海から少し離れたところに、立派な特別養護老人ホーム「さんりくの園」が建っていた。ここも外観は残っているが、中は全て流されてもぬけの空だ。津波で流された死亡行方不明者は50人以上にもなったという。



特別養護老人ホーム「さんりくの園」の惨状

・越喜来を後に国道 45 号線を釜石市へ向け北上した。釜石市へ入ってすぐ、国道から被災地を見下ろせる場所があった。釜石市唐丹町小白浜地区だ。



津波後の様子



現在の様子

堤防の一部が決壊して津波で洗い流された狭い平地が見える。唐丹町を襲った津波の第一波は午後 3 時 15 分だった。巨大津波は本郷・小白浜・片岸に建設された高さ 12 ㍎の防潮堤をいとも簡単に越えてなぎ倒していった。小白浜地区は約 200 世帯のうち約 70 世帯が津波で全半壊したが、町内で亡くなった人は 11 人と他地区に比べると犠牲者が余り出なかったそうよかった。

・9 時ごろ釜石市役所に着き災害対策本部にお邪魔したらお姉さんが対応して下さり、災害見舞いに来たと言ったら大変喜んでくれた。「高台にある鉄の歴史館の展望台から釜石市が良く見えますよ」と案内してくれたので早速行ってみたが、あまり展望が良くなく、鉄の歴史館は入場有料なので展望台へ



不便な高台に設置された仮設住宅



釜石警察署と運転免許センター

行かずすぐ下りてきた。それよりも鉄の歴史館の上の方に仮設住宅が建っており、こんな高台の不便なところに生活させられて気の毒に思った。海岸まで下った所に釜石市警察署と運転免許センターがひっそりと建っていた。二階まで津波で破壊され現在まだ復旧せず放置されたまま。当時運転免許センターには70人ほど居たが、警察官の誘導で全員高台へ避難して無事だったようだ。

・釜石市を出て北上し、この震災で良く耳にした大槌町へ入った。

**岩手県大槌町**は、大槌湾の奥にある地形からか、津波の被害がものすごく、震災前の人口約1万6000人のうち、その1割以上にあたる1724人が死亡または行方不明となった町だ。



津波が襲う様子（ネットより）

そのうえ直線距離で海岸から約300メートル離れたところにあった大槌町役場では、津波接近の報を受けて屋上に避難しようとしたものの、職員の約20人が屋上に上がったところで津波が到達し、庁舎の1、2階を襲った。町長と数十人の職員は非難に間に合わず津波に呑み込まれた。町長と課長クラスの職員が全員行方不明となったため、行政機能が麻痺したことが問題となった。被災した町役場は今も無残な姿をさらしており、玄関の前には献花が寂しそうに、その悲劇を物語っていた。



町長以下職員多数が犠牲になった大槌町役場。玄関上の時計は津波到達の時刻をさしていた。

・大槌町役場は大槌小学区の校庭にプレハブ小屋を建てて業務を行っていた。本当に気の毒になるようなお粗末な建物の中で皆さん一生懸命働いておられた。この小学校も津波の被害があり、おまけに火災にも見回られたため廃校となっていたものだが、町役場として改修し、私の伺ったあとの8月4日に新しい町役場として業務を開始したとのことだ。復興の第一歩として嬉しいことだ。



・大槌町の北側の隣に位置する山田町も津波の被害、特に人の被害が大きかった町だ。津波による死者・行方不明者が700人を超えた。住民たちは津波警報で最初は高台に避難していたが、第一波の津波が低かったことに安心して多くの人たちが自宅に戻り、第二波の大津波にのみ込まれたという。町役場近くの高台に避難していて助かった人は「避難した人の多くが津波の第一波が防潮堤を越えなかった

のを見て安心し、家財や持ち物を取るため高台を下って、家や職場に戻っていった」と証言している。



高台に建つ山田町役場・被害は少なかった



町役場から眺める山田町市街

山田漁港から約 400m 離れた市街地から外れたやや高台に建つ町役場近くへも津波が到達し、庁舎への津波の直接被害は免れたが、役場庁舎の道路に面した地下 1 階の通路から海水が流入し、地下 1 階の天井近くまで水没したという。町役場へお見舞いに立ち寄り海岸方面を眺めたが、木造家屋がことごとく流され、草が生えている土台が残る山田町市街が見渡せた。

・昼近くなったので、宮古市の道の駅で昼食でもとろうかと思い宮古市へ向かって北上した。天気はすっかり回復し快晴、空と海が美しく輝いている。

・宮古市の津波被害もすごいもので、津波の高さは 39 メートルにも達していた。国内では 1896 年の明治三陸地震の津波の時に岩手・大船渡市綾里で記録した 38.2 メートルが、陸上を駆け上がった津波の最大の記録とされていたが、これを超える国内最大の津波だったことがわかった。



宮古市街を津波が襲う模様は、市役所や高台から撮影されていて、いまでも

インターネットで沢山の映像を見ることが出来る。堤防を乗り越えた津波が漁船や車を市街地に突き落とし、次々と家屋を破壊してゆく光景は身の毛もよだつ恐ろしいものだ。

・下の階が津波の直撃を受けた市役所はきれいに復旧して業務を行っていたが、昼飯を食おうと思った道の駅は当然無い。快晴の空の下で、今は何事もなかったように穏やかな海を見ながら、手持ちの食料をかき集めて岸壁に腰掛けて昼食をとった。



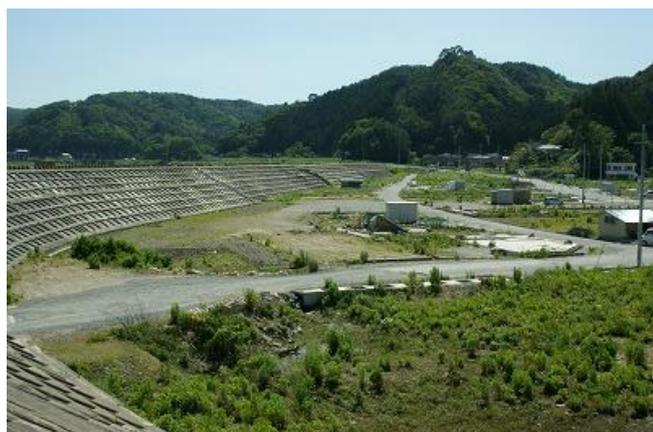
・津波対策のため頑強な防波堤を作ったことで有名な**田老町**へ入った。田老町はリアス式海岸の湾の奥に位置し、幾度も津波の被害を受けているため、津波に対して強い街づくりを進め、総延長 2.5km にも及び高さ 10m の防潮堤を45年もの年月をかけて完成させ、町自慢の防波堤だった。



**最強の堤防を誇っていた田老町**



しかし今回の津波は 10mの高さを優に超え、その力は自慢の防波堤を簡単に乗り越え、破壊し、町を壊滅させた。残った堤防の上から惨状を眺め、町役場を表敬慰問した。



↑新堤防は見事に破壊されたが  
←旧堤防は破壊されず残ったが、高さが足りなかった。

・岩泉に着いて目指す小本温泉「黄金八大竜王の湯」へ着いたら、なんと津波の被害が 閉鎖しているではないか。これはヤバい！ 今日は何としても風呂へ入りたい。今はまだ 2 時すぎで時間は十分ある。急遽 100km 北の久慈まで行って、新山根温泉「べっぴんの湯」に入ることを決意した。まず「べっぴんの湯」へ電話して営業していることを確認してから出発した。天気は良いので、遠いがなんとか頑張ろう。久慈までには途中、田野畑村、譜代村、野田村がある。

・田野畑村の津波被害も大きく、人口約4000人の村は、死者・行方不明者40人、全半壊533戸の被害が出たという。ただ国道が内陸部を走っているため車で通過した私には津波の被害をこの目で見る機会は無かった。村役場も国道沿いにあるので被害を免れたらしく、古めかしい村役場で皆さん復興業務に精を出しておられた。

・譜代村で国道は海岸線へ出る。譜代村の海岸は津波でできた瓦礫を集めた山がいくつもできていて重機がその整理に動いていた。すごい被害だと驚いたが、帰って調べてみると、被害にあったのは海岸に建っていた漁業施設や加工工場などの諸施設だけで、住宅と住民は立派な堤防に守られて被害が無かったという。「岩手県 普代村の奇跡 3000人の村の堤防があつた津波をはね返した」という記事が沢山出ている。



左側が漁港、右側が無傷の集落

普代村は 1896 年の明治三陸大津波で 1010 人の死者・行方不明者が出た。1933 年の津波でも約 600 人が死傷した経験から、戦後、和村幸徳という村長が『2度あることは3度あってはいかん』と多くの反対や抵抗をはねのけて、高さ 15.5 メートル、全長 130 メートルの「防潮堤」を建設したという。それが今回の津波から住宅、住民を守ったそう。さっき訪れた田老町とはなんとも対照的な結果になった。それを象徴してか青空をバックに雄々しく建つガラス張りの立派な村役場が印象的だった。



瓦礫の山を片付ける重機

・野田村を訪ねた後今回の被災地巡礼の最終地久慈市に 17 時前に到着、市役所へ寄って最後の挨拶をした。



ガラス張りの譜代村役場

◎今日は大船渡市を訪問してからここ久慈へ到着するまで丸一日走り通し、10 市町村を回り、津波の被害をいやというほど見せつけられもうクタクタに疲れた。風呂へ入って早く寝たい。ところがこの近所には風呂が無い。疲れより風呂に入りたい一心で、ここから 16 km も離れたところにある新山根温泉へ車を飛ばした。遠路を飛ばして来た甲斐があった、本格的な良い温泉だ！ 6月21日に家を出てから東北の被災地をずっと回ってきた。それも今日で終わり、この温泉でゆっくりと疲れをいやすことが出来た。



道の駅「くじ」

●明日からは「山バージョンに切り替えての行動だ」。久慈の道の駅で明日からの門出を祝おうと思ったが、異常低温状態の東北は外気温 11℃、寒くてビールもままならず、さっさと床についた。